

民生福祉常任委員会会議記録

- 1 日 時 令和5年11月13日(月) 午後2時9分から午後3時5分まで
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 茂木委員長、星野副委員長、鈴木、齋藤(育)、戸部 各委員
- 4 欠席委員 井上委員(公務)
- 5 説明者 角田(浩)市民部長、田村市民協働課長
角田(真)健康福祉部長、金子子ども課長
- 6 事務局 大島議事係長
- 7 傍聴者 なし
- 8 傍聴議員 小野塚議員
- 9 議 事
- (1) 市民部各課の所管事項報告・調査事項説明
 - (2) 市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換
 - (3) 健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明
 - (4) 健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換
 - (5) 今後の日程について
 - (6) その他
- 10 会議の概要
- (1) 市民部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 それでは、議事に入る。

次第(1) 市民部各課の所管事項報告・調査事項説明に入る。

まず、市民協働課の所管に係る事項について説明願う。

(田村市民協働課長 説明)

ア 市民協働課

・調査事項

1 地域づくり事業における各地区の進捗状況について

○市民協働課長 調査事項1「地域づくり事業における各地区の進捗状況について」説明する。資料2ページを御覧いただきたい。こちらは広報ぬまた10月号に掲載したものである。

まず、利南地区であるが、資料の右ページの下を御覧いただきたい。利南地区は地域運営組織の母体となるものとして振興協議会を想定している。今年度は計4回会議が行われ、今後の地域づくりに振興協議会としてどのように関わっていくかについて話し合いが続けられている。また、資料において「となみらいネットワーク」という地域の団体を紹介している。9月と10月に会議を開催し、今後の活動内容等について協議している。

次に、池田地区であるが、資料の左ページの上を御覧いただきたい。

池田地区は、振興協議会が地域運営組織の母体となり、中学生以上の全住民アンケート

の実施や「IKEDA区民フェス」を開催している。このほかにも「いけだのお宝発見プロジェクト」という地域資源を知るためのイベントを実施している。また、人づくり部会、安心安全部会、文化交流部会を設け、テーマごとに各団体間の課題や事業等を共有するための話し合いを行っている。

次に、薄根地区であるが、資料の左ページの中側を御覧いただきたい。

薄根地区は、振興協議会が地域運営組織の母体となって活動している。その傘下に7つの委員会が活動を行っており、資料に記載がある「地域資源チーム」による「地域探検」が8月に、また今月11日に「戸神山探検」を行っている。また、「木質資源を活用したエネルギー地産地消の仕組み検討委員会」ではペレットストーブの普及検討を行っている。地域部活の検討を行っている部活動検討委員会など非常に活発な活動が行われている。

次に、川田地区であるが、資料の左ページの下を御覧いただきたい。

川田地区は、区長会が「ふれあいカワダ会」と称して地域運営組織の母体となっている。

今年度は川田小学校と連携し、小学校の運動会において地域住民が「ふれあい競技」に参加している。また、地域住民有志による「明日の川田を考える集い」というものがあり、この会では地域課題を解決するために、具体的な活動として、まずは地域の人同士のつながりを持つということ、資料にあるとおり、通年で週1回のペースで卓球教室を開催している。また、様々な活動や取組を補助する人材を発掘・確保するためのボランティアを募り、今年度においては地域と学校の連携等を企画し、小学生の大根の種まきの補助や子持山登山の補助を務めるなどしている。会議はおおむね3か月に2回のペースで開催しており、今年度は4回の会議が開催されたところであり、本日午後7時から5回目の会議が開催される予定である。

以上申し上げた4地区は地域づくりモデル地区として同時期にスタートしており、利南地区を除く3地区については、来年度中の地域運営組織の本稼働に向けて会議を重ねている。

次に、白沢地区であるが、資料の右ページの中側を御覧いただきたい。白沢地区は、4回の座談会を経て、母体となる組織が8月に発足し、9月の会議において「しらさわみらい会」と会の名称を決定している。同日、具体的活動についても話し合わせ、会のPRを文化祭に合わせて実施するという提案があった。10月にその具体的な内容について協議し、11月3日の文化祭当日は、白沢創作館、駐車場において、キックオフイベントとして、だんご汁の提供や、ヤギ・仔牛とのふれあいコーナー開設、風船の提供などを実施している。

次に、利根地区であるが、資料の右ページの上を御覧いただきたい。利根地区は7月の座談会及び会議を経て、8月の会議において「利根準備会」という会が発足した。その後、9月と10月に会議が行われたが、何をテーマとしてどのように実施していくかについての協議が進められている。

最後に、旧沼田町の18か町についてであるが、資料の折り目近くの下のところを御覧いただきたい。10月6日金曜日、各町から区の三役にお越しいただくとともに、議員や一般の方などにも参加していただき、櫻井先生を講師として「実践に学ぶ これからの地域づくりへのヒント」を標題とし、地域づくり講演会を開催した。その後、下町3か町である榛名町、清水町、薄根町の区長等三役に御参集いただき、市民協働課から説明し、3か町の住民向け地域づくり講演会を12月8日に薄根町公民館において開催することとなった。

○委員長 説明が終わった。

調査事項1「地域づくり事業における各地区の進捗状況について」質疑はあるか。鈴木委員。

○鈴木委員 モデル地区の利南、薄根、池田、川田地区の中で、池田、薄根、川田地区が来年度にはいよいよ動き出しそうだという説明があったが、利南地区の9月、10月に行った協議の結果や今後の方針が分かれば教えていただきたい。

○市民協働課長 3地区の協議内容であるが、主に来年の本稼働に向けて、規約をどのように改正していくかなどについて話し合われていると聞いているが、具体的な内容までは把握していない。

利南地区の状況については、主に振興協議会としてどのように関わっていくかということについて話し合いをしているが4月のスタートに向けてということではなく、少し他の3地区の状況を見ながら、ゆっくり考えていこうというような話になったと聞いている。

○鈴木委員 10月6日にテラス沼田で行われた18か町のまちづくり講演会に参加させていただいた。櫻井先生の話をお聞かせしてもらったが、3年前に聞いたものと同じだった。櫻井先生の講話の内容そのものが、私の中では4回目の話だった。モデルとされている地域だったり、事例だったり、取組など、全部話の中身が同じで、今後も櫻井先生に継続して講話をしてもらうのか。例えば、毎年職員を対象に研修を行っていると思う。その中でファシリテーター研修みたいなものを行って、その役を職員が担ってもいいのではないかなと思うが、考えをお聞かせしてもらいたい。

○市民協働課長 櫻井先生の代わりに職員がするのは荷が重いというか、そこまでの説得力が持てるようになるには熟練の域に達しないと厳しいものがあると考えている。市民協働課協働推進係が所管しているところであり、職員は櫻井先生の話は何度も聞いていて刷り込まれているようなことではあるが、まだ、その域に達するのは厳しいので、先生にお願いするしかないかと現時点では考えている。

○鈴木委員 19年前に前橋市で同じ取組が行われたと思っている。前橋市のまちづくりは櫻井先生ではなく、市民や職員が主導で切り替えたと聞いている。今の話であると櫻井先生でないと難しいということであるが、前橋の事例に関して言えば、前橋市は櫻井先生ではなく、我々みんなで行っていきこうということでも切り替えたと思っている。例えば前橋市の事例を参考にするとかして、検討されるのか教えていただきたい。

○市民協働課長 職員の中に前橋市の地域づくりの会合に参加してみたという者が1名いる。参考にはなつたと聞いている。今後もそういった他市の事例なども参考にしながら地域づくり事業に生かせるような研究をしていきたいと考えている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ、以上で市民協働課を終了する。

以上で市民部各課の所管事項報告・調査事項説明を終わる。

(5) 今後の日程について

○委員長 次に、次第（５）今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

（事務局書記 説明）

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の説明のとおりでよろしいか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員長 それでは、そのようにしたい。

（市民部 退室）

（２）市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換

○委員長 それでは、次第（２）市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換に入る。意見はあるか。副委員長。

○副委員長 上毛新聞にも掲載されていたが、各行政区のやりくりがとても大変になっていて、私が住む人口が多いと言われている上原町でも区の三役を決めるのに毎年苦勞している。上原町では３年ぐらい前からいろいろな事業の見直しや負担軽減などを行っているが、それでも成り手がいない。今は退職してもそのまま、また働くという人がいる。区長として目ぼしい人がいても働いているから駄目といったことがある。そういう中で、私たちもそれぞれの役になってもらいやすいような環境をつくることについて勉強していきたいと思っている。簡単に「どう思っているのですか」と一般質問するよりも、自分たちで学びたいという気持ちもある。そういうことを含めて調査事項というか……。以前課長もそういう課題があるし、いろいろやらなければならないと言っていた。

○委員長 川田地区では振興協議会がなくなった。区長会と振興協議会はほぼ同じ人がやっているような形となっていて役員の成り手がいない。それだったら振興協議会をなくして区長会一本にしたらどうかということで振興協議会をなくした。結局、高齢化していて役員の成り手がなくて、役員を探すのが大変ということである。川田地区はそういったことで簡素化した。

○戸部委員 白沢地区も支所からコミュニティセンターになる。利根地区もそうである。「しらさわみらい会」というものができた。区長はその役員に入っていない。有志の人たちで組織ができて、缶バッジまで作って活動を始めた。区長会の立ち回りとか、区長会の立ち位置が分かりにくい。運動会するときなどは区長が人を集めてやっているが、今度はしらさわみらい会議の人がやるのかとか、その辺がまだみんな理解していない。

○副委員長 18か町ではもう街なかの過疎が始まってしまっている。実際に大変である。先進地から学びたいと思う。白沢地区であればしらさわみらい会議と区長会との兼ね合いがあるが、私が危惧を抱いているのは高橋場町のような大きな町でも役員の成り手がいない状況であるということだったり、自分が住む上原町も何千人もいるのにそういう事態になっている。まちをひとつずつ維持していくためにも、そこを担ってくれる区長はいわゆるボランティアである。自分の時間を使ってやってくれている。気持ちよく確保していく

かということは今までどおりのやり方ではなく……。配付物もたくさんあって大変である。そういうことを他人事として見ないで勉強したいと思う。新聞を読んで改めてそう思った。

○委員長 川田地区では区長会は年間行事がいろいろある。そういったものは主に区長会にやってもらう。ふれあい川田会では、ボランティアで「私は、昔、大工だったので建築関係だったら得意ですよ」みたいな、ボランティアのカードを作って、いろいろな業種の人にボランティアをしてもらっている。今回、農業の手伝いができるという人が支援してくれて、大根の種まきをした。もう第一線を退いた人たちがいると思うのでぜひそういう人たちに登録してもらって……。各地区で盛り上げていったらいいのではないかというような形で川田地区では進めている。ただ、まだ登録数が少ないということは現状としてある。

○戸部委員 これからどういう方向に進んでいくかである。コミセンがどういう方向に進んでいくか……。

○委員長 どういうことを市では描いているか。それに向けて、地区の人に動いてもらうのはいいが、市からはどういったお手伝いをしてもらえるのか。その辺が明確になっていけば明確に進めやすいと思う。その辺を説明してもらいたい。

○戸部委員 考え方や方向性とか方針についてである。

○副委員長 私が特にそう思っているのは、地域のこともあるが、区長、区の運営の負担軽減について聞きたい。それは課長も悩んでいる。どう思うというよりも私も勉強しなければいけないところではある。

○戸部委員 区長を3回やるケースもある。

○副委員長 どうしても次の役員が見つからないとまた自分でやることになる。

○戸部委員 もうそういう状況になってきているから大変である。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 調査事項について事務局にまとめさせる。

(事務局書記 説明)

○委員長 よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは、以上で市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を終了する。休憩する。

午後2:35～午後2:37

○委員長 休憩前に引き続き会議を再開する。

(3) 健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明

それでは、次第(3)健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明を行う。

子ども課の所管に係る事項について説明願う。

(金子子ども課長 説明)

ア 子ども課

・調査事項

- 1 令和6年度保育関係施設入園申込みの状況について
- 2 保育園の入園調整の方法について

○子ども課長 まず、調査事項1「令和6年度保育関係施設入園申込みの状況について」説明する。来年度の入園申込について、今年度は9月1日から10月13日まで保育関係施設の入園申込みの第1次受付を行っており、その状況について2ページの表にまとめた。

上の表は第1希望の園別の申込者数、下の表は年齢別申込者数となっている。

申込者数は公立・私立合計で907人であり、前年度との比較で58人の減少となっている。

現在は各園と入園調整を行っている段階であり、園との調整終了後に、保護者との調整を行い、12月上旬までに調整を終了して、12月中旬には保護者に通知を発送する予定である。

次に、調査事項2「保育園の入園調整の方法について」説明する。利用調整基準表を配付させていただいたので御覧いただきたい。まず、上の表、保育を必要とする事由(指数①)により父と母、両方に該当する項目の調整指数により点数をつける。申込者全員に点数がつくことになる。点数をつけ終わったところで合計点を出し、父と母どちらかの点が低いほうの点をとる。これは、通常の勤務をしていると全員ほぼ同じような点数となってしまう、差がつかなくなってしまうため、短時間就労の人がいるかなど差をつけるための選択となっている。次に、下の表、優先事由(指数②)により各家庭の状況に応じて、該当項目の調整指数により点数をつける。該当する項目がある人のみ点数がつくこととなり、令和6年度からは特例措置として、川田保育園からの転園を希望する場合に点数がつくように項目を設けた。点数がつけ終わったところで合計点を出し、点数を①と合計して点数の高い順に入園の調整を行う。それでも、どうしても同じ点数になってしまう場合には、同じ点数の人、全員に電話連絡し、現在の保育の状況や祖父母の状況等を再確認する。申込時に第3希望の園まで書いていただいているので、第2・第3希望園への意向などの状況を確認し、入園調整を行っているが、毎年、かなりの時間を要し、大変苦勞して調整を行っているところである。

○委員長 説明が終わった。まず、調査事項1「令和6年度保育関係施設入園申込みの状況について」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 やはり子供が減ってきていることが数字で如実に表れていると深刻に資料を見ている。川田保育園については申込者数が9名減っているとある。申込者数が9名減っているのは大体これまでと同じか、それとも閉園の影響を受けているということか。分析はしているか。

○子ども課長 昨年も大体10名程度減っている。同じような減り方となっており、例年どおりである。

○副委員長 分かった。

○戸部委員 公立、私立の合計を見るとマイナス58人とある。調整で落ち着くのか。多少のプラス・マイナスはあると思うがいかがか。

○子ども課長 これまでの経過を見ると令和4年度は35人減っていて、令和5年度が48人、令和6年度が58人ということでだんだん減少しているような状況になっているので、来年度も同数程度減るものと考えている。

○戸部委員 分かった。それだけ子供たちが減っているということである。

○委員長 私からよろしいか。

○副委員長 委員長。

○委員長 私立保育園の関係であるが、定員に対して申込者がオーバーしているところがある。このオーバーしている部分に関しては他の園に回ってもらうとかそういう形になるのか。

○子ども課長 基本的に120%までは国が認めている。120%を超えない部分については預かってもらっている。120%を超えて2年間を過ぎてしまうと駄目であるが、120%を超えても2年間だけは認めてくれることになっている。

○委員長 公立について聞きたい。利根保育園では定員が119人に対して申込数が28とある。白沢保育園でもそうだが、定員から見ると半分や半分以下のところがあるが、これは補助金の関係で定員をそのままにしているのか。子供が少ないのだから、定員数を減らしてもいいのではないか。定員を多くしておかないと保育士の確保ができないとかそういった都合があるのか聞かせてもらいたい。

○子ども課長 公立なので定員は補助とは関係ない。県への届出であるとかで手続がかなり必要になるので、特に定員は減らしていない。特に問題がないのでそのままとしているような状況である。もっと増えてもらいたいという願いもあるのであえて減らしていない。

○副委員長 よろしいか。

○委員長 分かった。ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項2「保育園の入園調整の方法について」質疑はあるか。副委員長。

○副委員長 入園調査の基準表を初めて見た。とても細かく、このように配慮されているのかと感じた。また、優先事由に早速、川田保育園のことも取り入れられていることに感謝している。基準表とは異なるが、いわゆる発達障害と見受けられるような人たちの情報を事前に保護者の同意を得て、園に提供できるかということである。そういったこともこれに合わせて作業していくのか。

○子ども課長 実際この表では、手帳を持っているとか、実際に判定を受けている人の判断材料となる。境界線の人にはなかなか難しいところがある。手帳で明らかに1級であるとか2級を持っているとか、基準がはっきりしているのであればこの表の中で見ていくことになるが、境界線の人についてはどういう保育をしたらいいかということはなかなか判断がつかない。入っていただく園児については、健康課と連絡を取って、園に伝えたいと考えているが、入る前の段階ということではなかなか健康課でも教えてくれないと思う。園に入るということが分かれば、この子は何々保育園で預かるからということで聞けるが、

入る前の段階ではなかなか個人情報なので聞くことができない。そこは入園の判断としては難しいと思っている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ、以上で子ども課を終了する。

以上で、健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明を終わる。

(5) 今後の日程について

○委員長 次に、次第(5)今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の説明のとおりでよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは、そのようにしたい。

(健康福祉部 退室)

(4) 健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換

○委員長 次第(4)健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換に入る。意見はあるか。齋藤委員。

○齋藤委員 10月28日に子ども課で婚活イベントがあった。その結果と今後どのように変えていったほうがいいのかなど検討があれば聞きたい。

○委員長 ほかに。副委員長。

○副委員長 私立保育園の園長から聞いたことについてであるが、やはり話は両者から聞かなければいけないと思った。その中で保育園の園長も忙しくて、説明しているにも関わらず理解が進んでいないようなこともあったかと思う。今のところ、両者から聞きっぱなしになってしまっている。来年も同じようなことを保育園の園長から聞くというのはいい循環ではないと思う。できることについては回答書みたいな形で、園長先生にお知らせするというか……。確かに担当課には労力をかけてしまうことになるが、こういうことについてはこうですよということをもしかしたら……。口頭で言っているけど、流れてしまったり、理解していないのかと思ったので、お知らせできることについては、そういう形で伝えると来年の話合いはもっと他のことでスムーズにできるのではないかと感じたがいかがか。

○委員長 その件に関して私が以前提案したと思うが、委員会として要望を上げれば必ず当局の回答が返ってくる。それを保育園に返すような形はどうか。私立保育園が市長に要望をあげていることに対する検討状況について説明してもらった方がいいのではないか。

○副委員長 内容が委員会に出されたものと同じであればいいが、違うとなるとまた来年も同じ話になってしまう。「いつまでたっても沼田市は……」となってしまう。

○委員長 園長会から要望があったことを当局から園に回答してもらうのでどうか。

○副委員長 そうするとおんぶ紐のことなどを聞いたが、その中に全部入っているかどうか分からない。

私たちもしっかりやってくれていることにはお礼を言って、認めて、整理して要望を伝えたり、評価していきたいと思う。

○委員長 事務局に整理させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 ないようなので、以上で健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を終了する。

(5) 今後の日程について

○委員長 次に、(5) 今後の日程について、イ 今後のスケジュールについて事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

(6) その他

○委員長 説明が終わった。その他、委員から何かあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 ないようなので、以上で本日の委員会を終了する。

(午後 3 時 5 分 終了)